

現代日本の青年期女子における 道徳に関する意識構造

——沖縄県と他県との比較調査研究（3）「善さ」の当為性と領域判断——
A Study on the Sense of Morality in Japan (3): Difference of Judgment
in Moral Good Deeds among Adolescent Women

阿部 洋子

Yohko ABE

要 約

沖縄県の私立大学（通学制）1年次学生（男女）に対して、留置法により、独自に作成した道徳（善）に関する様々な行為について、当為性と領域判断について回答を求める質問紙調査を実施した。本論文では、女子 53 名（平均年齢=19, 33 歳、SD=1.23）のみを分析の対象とした。また、同様の質問紙調査を、埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年次学生（男女）に対して、留置法により実施した。本論文では、女子 152 名（平均年齢=20.21 歳、SD=1.49）を分析の対象とした。いずれも質問紙に組み込んだ「虚偽項目（L 項目）」の総得点の高得点者はおらず、すべてのデータは信頼性に足るものであると判断した。

まず、当為性であるが、ここで取り上げた行為は、小学校・中学校の道徳の教科書に取り上げられている項目である。それを考えると、27 項目すべてが「するべき行為」として選択されるべきであろう。ところが、沖縄県でも他県でも「する必要がない」として選択されたのは「No.19 太陽に手を合わせる」であった。これは、自然への畏敬の念として、かつては一般的に実行されていた行為であろう。しかし近代社会になって、太陽への礼拝という行為は、アニミズムで劣ったものであるという考え方が浸透したために起きた結果ではないだろうか。また沖縄県では「自然を大切にすることが「すべきである」と判断されているが、その選択比率から比べると、類似項目である「自然と調和した生き方をすることは「すべきである」と判断される選択比率が低くなっている。これは自然との共生ということよりも、自然を観光資源として考える傾向が出てきている現われであるかもしれない。

全体的にみれば、沖縄県の調査結果は、他県に比べ、善なる行為を「するべきだ」と考えている傾向が強いように思われる。例えば「するべきだ」の回答比率が 80%以上の項目が、沖縄県では 15 項目あるが、他県では 5 項目しかないことが上げられる。実際に行動するかどうかは兎も角も、「するべきだ」と思う行為が多いことは、理想自我の形成、罪障感の形成に繋がると考えられる。そのことは、社会のルールは守るべきで、法律は守るべきだという回答比率がいずれも 90%を超えていることにも現われていると思われる。他県での調査結果では、社会のルールを守ることは 54.61%にすぎず、法律を守ることは 69.08%にすぎないからである。こうしたルールを守るべきだという回答比率がいずれも 90%を超えていることにも現われていると思われる。他県での調査結果では、社会のルールを守ることは 54.61%にすぎず、法律を守ることは 69.08%にすぎないからである。こうしたル

ールを守るべきだと思う背景に、親子関係に留まらず、先祖への崇拝の念が関係しているのではないかと考える。沖縄県の調査結果では、先祖の墓参りや、先祖を大切に思うという項目は、80%を超えているからである。

しかし、その一方で、年中行事を大切にすることや、神仏に手を合わせることをすべきことと考える比率が減少してきており、人間を繋ぎ合う基盤が、沖縄県であっても、少しずつ稀薄になっていっているように思われる。

次に、領域判断であるが、沖縄県でも、他県でも多くの項目が「個人」の領域の問題として判断されていることが分かった。「故郷を大切にすること」、「日本人を愛すること」、「世界中の人を大切に思う」、「日本の国を愛すること」、「先祖を大切にすること」などが、「個人」の領域の問題として受けとめられているということである。これは、道徳の授業が機能しているかどうか以前の問題であるように思われる。家族の中で、あるいは生活の中に、「博愛主義」より「個人主義」が大切にされているということであろうか。また国家が失われれば、その国民が路頭に迷うことは、近年の戦争難民の姿を見ていれば分かることであろうが、そうした想像力が失われているのかもしれないし、教育もなされていないということなのかもしれない。

問題

子どもたちの道徳心は、家庭での躰、学校での道徳の授業、地域社会での関係性のあり方などによって育成されていくものであろう。しかし、現代の日本の青少年を取り巻く環境は、その機能を果たすことができているのだろうか。

これまで東京都、埼玉県、神奈川県で実施した調査結果（阿部洋子：1996～2013年）から、現代の日本における道徳意識の構造の特徴を、善悪の程度、善悪の重要性、領域判断（道徳・社会的慣習・個人の自由）、当為性（するべきか、する必要がないか、すべきでないか）、善なる行為の実行の頻度について検討してきた。

そこで今回は、それらの結果に加え、沖縄県というエイサーやハーリーなど先祖供養にまつわる年中行事が大切にされている地域との結果を比較することで、道徳と祖先崇拝、家族関係、人間関係、ルールの内規の特徴を検討したいと考えた。なお、今回の沖縄県での調査では、男子の調査対象者が18名と少なかったため、因子構造を比較するに至らなかった。そのため本論文では、女子のデータのみを用いて、検討することにした。なお紙数の関係上、本論文では、道徳的に「善い」と考えられている行為の当為性と領域判断について検討すると共に、沖縄県と他県（埼玉県・神奈川県）では、その結果にどのような特徴がみられるかを検討することにした。

方法

1. 調査対象者および調査の実施方法

1) 調査期日

- ◆ 他県（埼玉県・神奈川県）：2008年10月1～30日
- ◆ 沖縄県：2012年11月

2) 調査対象者

- ◆ 他県：埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年次学生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、翌週の授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票のうち、記入漏れなどの欠損データのあるものを除き、251名（男子：92名、女子159名）を分析の対象とした。更に、その後、質問紙に組み込んだ「虚偽項目（L項目）」の総得点で、高得点を示した調査対象者（上位5%）の13名は「社会的望ましさ」に強く引かれた回答をしている可能性が高く、信頼性に欠けると判断し、最終的に238名（男子：86名（平均年齢=21.09歳、SD=3.60、女子：152名（平均年齢=20.21歳、SD=1.49））を分析の対象とした。
- ◆ 沖縄県：私立大学（通学制）1年次学生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票には、記入漏れなどの欠損データはなく、71名（男子：18名、女子53名）を分析の対象とした。上述の「虚偽項目（L項目）」の総得点で、高得点を示す者はなく、すべてのデータは信頼性に足るものであると判断した。しかし男子のデータが18名と少なかったため、因子構造を検討することができないため、本論文では、女子53名（平均年齢=19, 33歳、SD=1.23）のみを分析の対象とした。

2. 質問紙の構成^{注1}（道徳性尺度「善さ」）

選定された行為は、大学生86名に対して「道徳的に好ましいと思われる行為」について、各人に10項目を挙げて貰ったもの（阿部洋子；1995年、未発表）と、小学校・中学校の「道徳」の教科書の中から抽出されたものを、大学院生3名により、類似の表現のものをまとめた、27項目が選定された（阿部洋子；1995年、未発表）。この尺度において、①「善さ」の程度^{注2}、②当為性（するべきだ）、③領域判断（道徳・社会的慣習・個人）、④「善さ」の重要性、⑤「善い行為」の実行の頻度^{注3}を測定するものとした（阿部洋子；2010）。

なお、ここでは本論文で取り上げる②「当為性」と③「領域判断」の尺度の内容についてのみ、若干の説明を以下に述べることにする。

注1 質問紙の構成についての詳細は、阿部洋子（2007）を参照されたい。

注2 詳細な報告は『跡見学園女子大学文学部紀要第49号』（2014）を参照されたいが、本論文で「当為性」と「領域判断」を取り上げるにあたり、「善さ」の程度の各項目は、全体および各項目において、クロンバックの α 係数が、すべて0.80以上であり、項目水準での信頼性が高いことを付記しておく。

注3 詳細な報告は『跡見学園女子大学コミュニケーション文化紀要第9号』（2015）を参照されたい。

②当為性：選定された 27 項目について、その行為は「必ずそうすべきだ：5 点～そうする必要は全くない：0 点」の 5 段階尺度で評定を求めた。

③領域判断：選定された 27 項目について、その行為を「した方がよい」と考える“暗黙のルール”は、「道德」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属すると考えるかについて、いずれか 1 つを選択するよう求めた。

なお、本論文を読み進める上で、「善さ」の程度の因子構造（主因子法、プロマックス回転）を記述しておく。沖縄県では、スクリー法により、4 因子が抽出され、第 1 因子は「挨拶、感謝、敬語などの言葉がけの尊重、弱者・高齢者へのいたわり・尊重、校則を守る」、第 2 因子は「日本人・世界中の人間、故郷・日本の国、夢を大切にする、自然を大切にする、太陽に手を合わせる」、第 3 因子は「家族、先祖、年中行事の尊重、親孝行」、第 4 因子は「法律、社会のルールの遵守、我慢する、神仏に手を合わせる」と命名された。他県では、スクリー法により、4 因子が抽出され、第 1 因子は「法律、社会のルールの遵守、校則を守る、挨拶、感謝、敬語などの言葉がけの尊重、弱者・高齢者へのいたわり・尊重、親孝行」、第 2 因子は「家族、先祖、年中行事の尊重、我慢する、神仏や太陽に手を合わせる」、第 3 因子は「夢や自然を大切にする、家族揃っての食事」、第 4 因子は「日本人・世界中の人間、故郷・日本の国を大切に思う」と命名された。

結果

1. 「善さ」の当為性による検討

「道徳性尺度（善さ）」の 27 項目について、「必ずそうすべきだ」から「そうする必要は全くない」の 5 段階評定により、その当為性についての考えを求めたが、集計に当たり、「するべきだ」、「どちらとも言えない」、「する必要はない」の 3 群に分類し、回答率に偏りが見られるかどうかを検討した。

その結果、「するべきだ」との回答が 90%以上になった項目は、他県では「No.5 年上の人に対して敬語を使う（96.05%：沖縄県では 88.68%）」（第 1 因子）の 1 項目のみであったが、沖縄県では、

「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（96.23%：他県では 87.50%）」（第 1 因子）、

「No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（92.45%：他県では 60.53%）」（第 1 因子）、

- 「No.4 学校の先生に挨拶をする (90.57% : 他県では 75.66%)」(第 1 因子)、
「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる (90.57% : 他県では 54.61%)」(第 1 因子)、
「No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる (98.11% : 他県では 57.24%)」
(第 1 因子)、
「No.11 社会のルールを守る (90.57% : 他県では 54.61%)」(第 4 因子)、
「No.12 法律を守る (98.11% : 他県では 69.08%)」(第 4 因子)、
「No.15 親孝行する (98.11% : 他県では 81.58%)」(第 3 因子)、
「No.26 自然を大切にす (90.57% : 他県では 63.82%)」(第 2 因子) の 9 項目であった。

次に「すべきだ」との回答が 90%未満 80%以上になった項目は、他県では

- 「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う (87.50% : 沖縄県では 96.23%)」
(第 1 因子)、
「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない (87.50% : 沖縄県では 88.68%)」(第 1
因子)、
「No.14 家族揃って、食事をする (82.89% : 沖縄県では 67.92%)」(第 1 因子)、
「No.15 親孝行する (81.58% : 沖縄県では 98.11%)」(第 3 因子) の 4 項目であったが、
沖縄県では、
「No.5 年上の人に対して敬語を使う (88.68% : 他県では 96.05% :)」(第 1 因子)、
「No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない (88.68% : 他県では 87.50%)」(第 4 因子)、
「No.16 先祖のお墓参りに行く (83.02% : 他県では 62.50%)」(第 3 因子)、
「No.17 自分の先祖を大切に思う (81.13% : 他県では 46.05%)」(第 3 因子)、
「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする (86.79% : 他県では 42.76%)」(第 2 因子)、
「No.25 夢や目標を持つ (86.79% : 他県では 53.29%)」(第 2 因子) の 6 項目であった。

次に「すべきだ」との回答が 80%未満 70%以上になった項目は、他県では

- 「No.4 学校の先生に挨拶をする (75.66% : 沖縄県では 90.57%)」(第 1 因子)、
「No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う (70.39% : 沖縄県では 73.58%)」(第 4 因子) の 2 項目
であったが、
沖縄県では、
「No.3 近所の人に挨拶をする (79.25% : 他県では 69.08%)」(第 1 因子)、
「No.10 小学生・中学生が校則を守る (73.58% : 他県では 57.89%)」(第 1 因子)、
「No.13 年中行事を大切にす (75.47% : 他県では 68.42%)」(第 3 因子)、
「No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う (73.58% : 他県では 70.39%)」(第 2 因子) の 4 項目で

あった。

次に、「するべきだ」の回答率が最も高いが、その比率が 70%未満 50%以上の項目は、他県では、「No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う (60.53%:沖縄県では 92.45%)」(第 1 因子)、

「No.3 近所の人に挨拶をする (69.08%:沖縄県では 79.25%)」(第 1 因子)、

「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる (54.61%:沖縄県では 90.57%)」(第 1 因子)、

「No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる (57.24%:沖縄県では 98.11%)」(第 1 因子)、

「No.8 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する (55.92%:沖縄県では 13.21%)」(第 2 因子)、

「No.10 小学生・中学生が校則を守る (57.89%:沖縄県では 73.58%)」(第 1 因子)、

「No.11 社会のルールを守る (54.61%:沖縄県では 90.57%)」(第 1 因子)、

「No.12 法律を守る (69.08%:沖縄県では 98.11%)」(第 1 因子)、

「No.13 年中行事を大切にする (68.42%:沖縄県では 75.47%)」(第 2 因子)、

「No.16 先祖のお墓参りに行く (62.50%:沖縄県では 83.02%)」(第 2 因子)、

「No.22 日本人を愛する。大切に思う (60.53%:沖縄県では 54.72%)」(第 4 因子)、

「No.25 夢や目標を持つ (53.29%:沖縄県では 86.79%)」(第 3 因子)、

「No.26 自然を大切にする (63.82%:沖縄県では 90.57%)」(第 3 因子) の 13 項目であったが、沖縄県では、

「No.14 家族揃って、食事をする (67.92%:他県では 82.89%)」(第 3 因子)、

「No.22 日本人を愛する。大切に思う (54.72%:他県では 60.53%)」(第 2 因子)、

「No.23 世界中の人を愛する。大切に思う (64.15%:他県では 46.71%)」(第 2 因子)、

「No.27 自然と調和した生き方をする (67.92%:他県では 48.68%)」(第 2 因子) の 4 項目であった。

次に、「する必要はない」との回答率が最も高く、その比率が 70%以上になった項目は、他県では「No.19 太陽に手を合わせる (83.55%)」(第 2 因子) の 1 項目であった。この項目は「どちらとも言えない」の回答率が 13.82%、「するべきだ」の回答率が 2.63%であった。

更に、「する必要はない」との回答率が最も高く、その比率が 70%以上になった項目について整理したが、他県では、1 項目もみられなかった。

沖縄県では「する必要はない」との回答率が最も高く、その比率が 70%以上になった項目は、1 項目もなかったが、「する必要はない」との回答率が 70%未満 60%以上になった項目は、「No.19 太

陽に手を合わせる (66.04%)」(第 2 因子) の 1 項目であった。この項目は「どちらとも言えない」の回答率が 28.30%、「するべきだ」の回答率が 5.66%であった。

なお、「どちらとも言えない」の回答が最も多く選択され、その比率が 40%以上になった項目は、他県では、

「No.20 日本の国を愛する。大切に思う (44.74% : 沖縄県では 39.62%)」(第 4 因子)、

「No.23 世界中の人を愛する。大切に思う (46.71% : 沖縄県では 24.53%)」(第 4 因子)、

「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする (42.76% : 沖縄県では 11.32%)」(第 3 因子)、

「No.27 自然と調和した生き方をする (48.68% : 沖縄県では 22.64%)」(第 3 因子) の 4 項目であったが、沖縄県では、「どちらともいえない」が最も多く選択され、その比率が 40%以上の項目は、1 項目もなかった。

最後に、判断が 3 群に均等にばらついたのは、他県では、「No.17 自分の先祖を大切に思う (46.05% : 沖縄県では 81.13%)」、「No.18 神仏に手を合わせる」の 2 項目であった。沖縄県では、「No.18 神仏に手を合わせる (するべきだ : 45.28%、どちらでもよい : 30.19%、する必要はない : 24.53%)」(第 4 因子)、「No.20 日本の国を愛する。大切に思う (するべきだ : 43.40%、どちらでもよい : 39.62%、する必要はない : 16.98%)」(他県では、するべきだ : 44.74%)」の 2 項目であった。

ところで、当為性の選択で「するべきだ」の回答率が 3 群の中で、最も低い項目は、他県では「No.19 太陽に手を合わせる (2.63%)」であった。沖縄県では、「するべきだ」の回答率が 3 群の中で、最も低い項目は、他県と同様に「No.19 太陽に手を合わせる (5.66%)」であった。

2. 「善さ」の領域判断による検討

「道徳性尺度 (善さ)」の 27 項目について、その行為を「した方がよい」と考える“暗黙のルール”は、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属するかを判断して貰った。その回答結果について、回答率に偏りが見られるかどうかを検討した。

その結果、「道徳」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 70%以上になった項目は、他県では 1 項目もみられなかったが、沖縄県では「No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる (71.70% : 他県では 59.87%)」の 1 項目であった。

次に、「道徳」と領域判断された回答率が 70%未満 60%以上になった項目は、他県では「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（61.84%：沖縄県では 56.60%）」の1項目のみであったが、沖縄県では1項目もみられなかった。

次に、「道徳」と領域判断された回答率が 60%未満 50%以上になった項目は、他県では「No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（54.61%：沖縄県では 43.40%）」、「No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（59.87%：沖縄県では 71.70%）」、「No.26 自然を大切に作る（51.97%：沖縄県では 47.17%）」の3項目であった。

なお「No.2」は、「社会的慣習」が 13.16%とやや低い比率を示し、「個人」が 32.24%とほぼ同率であり、「No.7」は、「社会的慣習」が 28.95%、「個人」が 11.18%と共にほぼ同率であり、「No.26」は、「社会的慣習」が 26.32%、「個人」が 21.71%とほぼ同率を示した。

沖縄県では「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（56.60%：他県では 61.84%）」、

「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる（50.94%：他県では 42.11%）」の2項目であった。

なお「No.1」は「社会的慣習」が 33.96%であり、「個人」が 9.43%であった。「No.6」は、「社会的慣習」が 41.51%、「個人」が 7.55%であった。

次に、「道徳」と領域判断された回答率が 50%未満 40%以上になった項目は、他県では

「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる（42.11%：沖縄県では 50.94%）」、

「No.15 親孝行する（46.71%：沖縄県では 45.28%）」の2項目であった。

なお「No.6」は、「社会的慣習」が 38.16%とほぼ同率、「個人」が 19.74%とやや低い比率であり、「No.15」は、「社会的慣習」が 9.21%と低い比率を示し、「個人」が 44.08%とほぼ同率を示した。

沖縄県では、「道徳」と領域判断された回答率が 50%未満 40%以上になった項目は、

「No.15 親孝行する（45.28%：他県では 46.71%）」、

「No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（43.40%：他県では 54.61%）」、

「No.12 法律を守る（47.17%：他県では 53.95%）」

「No.26 自然を大切に作る（47.17%：他県では 51.97%）」

なお「No.2」は、「社会的慣習」が 18.87%と低い比率を示し、「個人」が 37.74%とほぼ同率であった。「No.12」は、「社会的慣習」が 50.94%とほぼ同率を示し、「個人」が 1.89%と低い比率を示した。「No.15」は、「社会的慣習」が 24.53%を示し、「個人」が 30.19%を示し、3つの領域にほぼ同率となった。「No.26」は、「社会的慣習」が 35.85%とほぼ同率を示し、「個人」が 16.98%と低い比率を示した。

「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は、他県でも、沖縄県でも1項目もなかった。

次に、「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%未満60%以上になった項目は、他県では

「No.3 近所の人に挨拶をする（61.18%：沖縄県では54.72%）」の1項目のみであったが、沖縄県では、

「No.10 小学生・中学生が校則を守る（62.26%：他県では50.00%）」、

「No.11 社会のルールを守る（67.92%：他県では57.24%）」の2項目であった。

次に、「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が60%未満50%以上になった項目は、他県では

「No.9 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（57.24%：沖縄県では、50.94%）」、

「No.10 小学生・中学生が校則を守る（50.00%：沖縄県では、62.26%）」、

「No.11 社会のルールを守る（57.24%：沖縄県では、67.92%）」、

「No.12 法律を守る（53.95%：沖縄県では、50.94%）」の4項目であった。

なお「No.9」は、「道徳」が25.00%、「個人」が17.76%と共にやや低い比率を示し、「No.10」は、「道徳」が33.55%、「個人」が16.45%と共にやや低い比率を示し、「No.11」は、「道徳」が37.50%とやや低く、「個人」が5.26%と低い比率を示し、「No.12」は、「道徳」が42.11%とほぼ同率、「個人」が3.95%と低い比率を示した。

沖縄県では、

「No.3 近所の人に挨拶をする（54.72%：他県では61.18%）」、

「No.5 年上の人に対して敬語を使う（56.60%：他県では48.03%）」、

「No.9 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（50.94%：他県では57.24%）」、

「No.12 法律を守る（50.94%：他県では53.95%）」

「No.13 年中行事を大切に作る（56.60%：他県では48.68%）」

なお「No.3」は「道徳」が24.53%と低い比率を示し、「個人」も20.75%と低い比率を示した。「No.5」は「道徳」が33.96%とほぼ同率を示し、「個人」は9.43%と低い比率を示した。「No.9」は「道徳」が28.30%と低い比率を示し、「個人」も20.75%と低い比率を示した。「No.12」は「道徳」が47.17%とほぼ同率を示し、「個人」も1.89%と低い比率を示した。「No.13」は「道徳」が16.98%と低い比率を示し、「個人」も26.42%とほぼ同率を示した。

次に、「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 50%未満 40%以上になった項目は、他県では

- 「No.4 学校の先生に挨拶する (49.34%)」、
- 「No.5 年上の人に対して敬語を使う (48.03%)」、
- 「No.13 年中行事を大切にする (48.68%)」の3項目であった。

なお「No.4」は、「道徳」が 31.58%とほぼ同率、「個人」が 19.08%とやや低い比率を示し、「No.5」は、「道徳」が 40.13%とほぼ同率を示し、「個人」が 11.84%と低い比率を示し、「No.13」は、「道徳」が 9.21%と低い比率を示し、「個人」が 42.11%とほぼ同率を示した。

最後に、「個人」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 70%以上になった項目は、他県では

- 「No.8 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する (79.61% : 沖縄県では 75.47%)」、
- 「No.19 太陽に手を合わせる (74.34% : 沖縄県では 84.91%)」、
- 「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする (83.55% : 沖縄県では 79.25%)」、
- 「No.25 夢や目標を持つ (84.21% : 沖縄県では 66.04%)」の4項目であった。

沖縄県では

- 「No.8 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する (75.47% : 他県では 79.61%)」、
 - 「No.19 太陽に手を合わせる (84.91% : 他県では 74.34%)」、
 - 「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする (79.25% : 他県では 83.55%)」であった。
- なお「No.8」は「道徳」が 1.89%と低い比率を示し、「社会的慣習」も 22.64%と低い比率を示した。「No.19」は「道徳」が 5.66%、「社会的慣習」も 9.43%と共に低い比率を示した。「No.24」は「道徳」が 11.32%、「社会的慣習」も 9.43%と共に低い比率を示した。

次に、「個人」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 70%未満 60%以上になった項目は、他県では

- 「No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う (65.79% : 沖縄では 64.15%)」、
- 「No.22 日本人を愛する。大切に思う (65.79% : 沖縄県では 58.49%)」の2項目であった。

沖縄県では

- 「No.20 日本の国を愛する。大切に思う (60.38% : 他県では 55.26%)」、
- 「No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う (64.15% : 他県では 65.79%)」、

「No.25 夢や目標を持つ (66.04%：他県では 84.21%)」の3項目であった。

なお「No.20」は「道德」が 7.55%と低い比率を示し、「社会的慣習」は 32.08%を示した。「No.21」は「道德」が 22.64%、「社会的慣習」は 13.21%と共に低い比率を示した。「No.25」は「道德」が 22.64%、「社会的慣習」は 11.32%と共に低い比率を示した。

次に、「個人と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 60%未満 50%以上になった項目は、他県では

「No.14 家族揃って、食事をする (58.55%：沖縄県では 47.17%)」、

「No.17 自分の先祖を大切に思う (50.00%：沖縄県では 47.17%)、

「No.18 神仏に手を合わせる (55.92%：沖縄県では 50.94%)」、

「No.20 日本の国を愛する。大切に思う (55.26%：沖縄県では 60.38%)」、

「No.23 世界中の人を愛する。大切に思う (51.32%：沖縄県では 52.83%)」の5項目であった。

なお「No.14」は、「道德」が 16.45%と低く、「社会的慣習」が 25.00%とやや低い比率を示し、「No.17」は、「道德」が 28.29%、「社会的慣習」が 21.71%と共にやや低い比率を示し、「No.18」は、「道德」が 19.74%、「社会的慣習」が 24.34%と共にやや低い比率を示し、「No.20」は、「道德」が 21.71%、「社会的慣習」が 23.03%と共にやや低い比率を示した。

沖縄県では

「No.18 神仏に手を合わせる (50.94%：他県では 55.92%)」、

「No.23 世界中の人を愛する。大切に思う (52.83%：他県では 51.32%)」の2項目であった。

なお「No.18」は「道德」が 18.87%は低い比率を示し、「社会的慣習」は 30.19%でほぼ同率を示した。「No.23」は「道德」が 28.30%、「社会的慣習」は 18.87%と共に低い比率を示した。

次に、「個人と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 50%未満 40%以上になった項目は、他県では

「No.27 自然と調和した生き方をする (43.42%：沖縄県では 43.40%)」の1項目のみであり、「道德」が 26.97%、「個人」が 29.61%とやや低い比率を示した。沖縄県では

「No.14 家族揃って、食事をする (47.17%：他県では 58.55%)」、

「No.17 自分の先祖を大切に思う (47.17%：他県では 50.00%)」、

「No.27 自然と調和した生き方をする (43.40%：他県では 43.42%)」の3項目であった。

なお「No.14」は「道德」が 16.98%と低い比率を示し、「社会的慣習」は 35.85%とほぼ同率を示した。「No.17」は「道德」が 35.85%とほぼ同率を示し、「社会的慣習」は 16.98%と低い比率を示した。「No.27」は「道德」が 28.30%、「社会的慣習」も 28.30%と低い比率を示した。

最後に、判断が 3 領域に均等にばらついたのは、他県では「No.16 先祖のお墓参りに行く」の 1 項目であり、沖縄県では 1 項目もみられなかった。

考察

1. 「善さ」の当為性

「道徳性尺度（善さ）」の 27 項目について、「すべき行為」、「どちらともいえない」、「する必要がない行為」として、その当為性の違いの特徴を検討するために、適合度検定を実施した。

しかし、これらの行為は、小学校・中学校の道徳の教科書に取り上げられている項目であることを考えると、27 項目すべてが「すべき行為」として選択されるべきであろう。ところが「No.19 太陽に手を合わせる」は、沖縄県では 66.04%、他県では 83.55%が、「する必要がない」として選択した。これは、自然への畏敬の念として、かつては一般的に実行されていた行為であろう。しかし近代社会になって、太陽への礼拝という行為は、アニミズムで劣ったものであるという考え方が浸透したために起きた結果ではないだろうか。沖縄県では、先祖供養に関する儀礼が残っていることにより、他県に比べて「する必要がない」と回答する比率が低いのかもしれない。しかし「すべきである」との回答は沖縄県でも 5.66%である。これは他県の 2.63%に比べれば、まだ多いといえようが、樂觀できるものではないと思われる。

次に、「どちらとも言えない」という回答が最も多く選択され、その比率が 40%以上の項目について検討すると、沖縄県では 1 項目もなく、他県との違いがみられる。「No.27 自然と調和した生き方をする」では、沖縄県では「どちらともいえない」の選択比率が 22.64%であり、他県の 48.68%に比べて低いといえよう。沖縄県では「すべきである」の選択比率が 67.92%であるので、それほど高い比率とは言ってもよいとは思われない。この項目と類似した「自然を大切にする」という項目では、他県では「すべき行為」として 63.82%が選択しているが、沖縄県では「すべき行為」として 90.57%が選択しており、他県に比べて、自然を観光資源として考えているのかもしれない。自然と調和した生活をしなくとも、観光資源として大切にすることであるかもしれない。

しかし全体的にみれば、沖縄県の調査結果は、他県に比べ、善なる行為を「すべきだ」と考えている傾向が強いことがわかる。例えば「すべきだ」の回答比率が 80%以上の項目が、沖縄県では 15 項目あるが、他県では 5 項目しかない。実際に行動するかどうかは兎も角も、「すべきだ」と思う行為が多いことは、理想自我の形成、罪障感の形成に繋がると考えられる。また社会のルールは守るべきで、法律は守るべきだという回答比率がいずれも 90%を超えている。これは当然のこのよ

うに思うかもしれないが、他県での調査結果では、社会のルールを守ることは 54.61%にすぎず、法律を守ることは 69.08%にすぎないのである。こうしたルールを守るべきだと思う背景に、親子関係に留まらず、見たこともない先祖への崇拝の念が関係しているのではないかと考える。沖縄県の調査結果では、先祖の墓参りや、先祖を大切に思うという項目は、80%を超えている。

その一方で、年中行事を大切にすることは、75.47%であり、神仏に手を合わせることは、45.28%となっており、人間を繋ぎ合うベースが、沖縄県であっても、少しずつ稀薄になっていっているのではないかと感じる。

2. 「善さ」の領域判断

当為性のところでも述べた通り、「道徳性尺度（善さ）」の 27 項目は小学校・中学校の道徳の教科書に取り上げられている項目である。それを考えると、「道徳」「社会慣習」「個人」の 3 領域の中で、「個人」の領域として判断されるべきものではない。

ところが、他県の調査結果では、「道徳」領域として判断される比率が 70%を超える項目は 1 つもなかった。また沖縄県の調査結果では、70%を超える項目が多くみられるのではないかと考えていたが、「No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる」（71.70%）の 1 項目のみであった。

他県で、「道徳」領域として 50%以上が判断した項目は、27 項目中、4 項目にすぎず、沖縄県では、3 項目にすぎなかった。それでは「社会的慣習」領域として判断されているのだろうか。他県でも、沖縄県でも「社会的慣習」領域として判断される比率が 70%を超える項目は 1 項目もなかった。60%以上が判断した項目は、他県で 1 項目、沖縄県で 2 項目であった。50%以上が「社会的慣習」領域だと判断する項目は、合計で 5 項目、沖縄県で合計 7 項目であった。

即ち、道徳の教科書に書かれている内容が、「道徳」としても、「社会的慣習」としても判断されない状況にあるということである。それでは「個人」領域として判断される比率が 70%を超える項目はいくつあったかということである。他県では 4 項目、沖縄県では 3 項目であった。60%以上に下げると、他県では合計 6 項目、沖縄県では合計 5 項目であった。50%以上に下げると、他県では合計 11 項目、沖縄県では合計 9 項目であった。「故郷を大切にすること」、「日本人を愛すること」、「世界中の人を大切に思う」、「日本の国を愛すること」、「先祖を大切にすること」などが、「個人」領域の問題として受けとめられているということである。これは、道徳の授業が機能しているかどうか以前の問題であるように思われる。家族の中で、あるいは生活の中に、「博愛主義」より「個人主義」が大切にされているということであろうか。また国家が失われれば、その国民が路頭に迷うことは、近年の戦争難民の姿を見ていれば分かることであろうが、そうした想像力が失われているのかもしれないし、教育もされていないということなのかもしれない。

参考文献

- 阿部洋子 1996 道徳性尺度作成の試み——予備的研究—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第 6 号
- 阿部洋子 1998 道徳性尺度作成の試み——予備的研究(3)—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第 8 号
- 阿部洋子 2005 現代日本人における「道徳性」に関する意識構造の心理学的解明の試論——「道徳性尺度」作成のための予備的調査(2)—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第 38 号
- 阿部洋子 2007 現代日本人の青年期における善悪に関する意識構造と道徳領域判断 跡見学園女子大学文学部紀要 第 40 号
- 阿部洋子 2009 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(1)「悪さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第 42 号(2)
- 阿部洋子 2010 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(2)「善さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第 44 号
- 阿部洋子 2011 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(3)善悪の評価の違いについて 跡見学園女子大学文学部紀要 第 46 号
- 阿部洋子 2012 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(4)「善さ」の行動化 跡見学園女子大学文学部紀要 第 47 号
- 阿部洋子 2014 現代日本の青年期女子における道徳に関する意識構造——沖縄県と他県との比較調査研究 (1) 善の因子構造—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第 49 号
- 阿部洋子 2015 現代日本の青年期女子における道徳に関する意識構造——沖縄県と他県との比較調査研究 (2) 「善さ」の行動化—— 跡見学園女子大学コミュニケーション文化学科紀要 第 9 号
- 文部省 1988 小学校指導書 道徳編
- 文部省 1988 中学校指導書 道徳編
- Smetana,J.G.,Bridgeman,D.L. & Turiel,E. 1983 Differential of domains and prosocial behavior. In D.L.Bridgeman(Ed.), The nature of prosocial development: Interdisciplinary theories and strategies.(pp.163-183) New York: Academic Press.
- Turiel,E. 1978 The development of concepts of social structure: Social convention In Glick,J. & Clark-Stewart,K.A.(Eds.), The Development of social understanding.(pp.25-107). New York: Gardner Press.
- Turiel,E. 1983 The development of social knowledge: Morality and convention: Cambridge. England: Cambridge Press.